

高等学 校

平成 29 年度

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	3
III	研究仮説	4
IV	研究方法	4
V	研究内容	7
VI	研究の成果	19
VII	今後の課題	23

<b>研究主題</b>	<b>自分の考えを見直し深めるための授業改善</b> ～思考過程を振り返り、学習した思考の流れを活用する授業改善の工夫～
-------------	---

## I 研究主題設定の理由

### 1 研究の視点、新しい時代に求められる「思考力、判断力、表現力等」

前年度までは、「主体的・協働的な学習」を主たる研究主題とし、平成 27 年度に「指導の在り方」、平成 28 年度に「指導と評価」を研究してきた。

これらを受け今年度は、『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指した授業改善」を研究主題とし、新しい時代に求められる資質・能力のうち、「思考力、判断力、表現力等」の育成に重点を置き、「新しい時代に求められる『思考力、判断力、表現力等』を高めるための授業改善」を研究の柱とした。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 12 月）（以下「答申」という。）では、次期学習指導要領について、「2030 年の社会と、そして更にその先の豊かな未来において、一人一人の子供たちが、自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、よりよい人生とよりよい社会を築いていくために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示すこと」とし、「複雑で変化の激しい社会の中で、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力」の育成が、今後ますます重要となることを示している。

国語科における現行の学習指導要領の成果と課題については、PISA2015（平成 27 年実施）の読解力調査の結果に対して、「国際的には引き続き平均得点が高い上位グループに位置している」が、「子供たちが将来どのような場面に直面したとしても発揮できるような、確かな読解力を育んでいくこと」の重要性を指摘している。

さらに、国の学力調査（平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」）の中学校の結果を見ると、「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題がある」とされている。

また、答申では「教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義形式の伝達型授業に偏っている傾向」があり授業改善が必要であることや、「文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること、多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること、国語の語彙の構造や特徴を理解すること」の重要性を指摘している。

このような状況を踏まえ、本研究では、新しい時代に求められる「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指すために、授業をどのように改善していくべきかの検討を始めた。

## 2 生徒の現状と課題

本研究では、日頃指導している所属校の生徒の状況を挙げ、それらを基に協議し、次のように共通点を整理した。

### 【本研究で感じている生徒の状況】

- 自分の考えを他人と比較するなどして、考えを深めたり、見直したりすることが、十分にはできていない。
- 生徒は単元内容を理解してはいるが、学んだことを以後の学習に生かすことが、十分にはできていない。
- 上記のことは、学習意欲の多寡とは関わりなく、授業の多くの場面で観察できる。

さらに、所属校でアンケートを行った結果、生徒の授業に対する目的意識に関して、「授業で扱った教材について、先生の解説を聞き本文の内容を理解する」に「よく当てはまる」又は「当てはまる」と回答した生徒の割合が95%程度であるのに対し、「教材から読み取れる筆者の考えやテーマを他のことに活用する」への回答は50%程度であった。

このような実情を踏まえ、本研究では生徒の現状を次のようにまとめた。

### 【現状】

- 生徒の思考過程は一面的であり、自分の考えを深化させ、多面的・多角的に思考する力が十分に身に付いていない。
- 生徒は単元の内容を理解はしているが、学んだ知識を相互に関連付けて考えたり、学んだことを以後の学習に活用したりすることが十分にできていない。

ある民間の調査では、調査対象である高校教師の多くは、生徒に「身に付けさせたい力」として「基礎的・基本的な知識・技能」を挙げており、次いで「学び続ける力」を挙げている。また、大学の学長・学部長を対象とした調査（平成24年実施「学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査」文部科学省）では、学長の57%、学部長の58%が、学生の「獲得した知識等を活用し、新たな課題に適用し課題を解決する能力」を「不十分」又は「やや不十分」と認識し、「学生の学修にあたっての課題」については、学長の82%、学部長の84%が、学生の「自ら学び考える習慣」の不足を「大きな課題」又は「課題」と認識している。

このような傾向は中学校段階から見られる。国の学力調査（平成28年度「全国学力・学習状況調査」）では、自分の考えの「根拠として取り上げる内容が適切かどうかを吟味したり、どの部分が根拠であるかが明確になるような表現上の工夫をしたりすること」や「課題の解決に向けて、具体的な情報収集の方法を考える点」が課題とされている。

このことから、習得した知識等を活用し、新たな課題に対して解決する力や、学んだ知識を相互に関連付けることや、身に付けた知識を次の学習に活用できる力の育成をするための授業改善が必要であり、今後、生徒の新しい時代に求められる「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指すために、本研究における課題を次のように捉えた。

### 【課題】

- 自分の考えを深化させ、多面的・多角的に思考させる力を育む学習活動の充実
- 身に付けた知識を相互に関連付けて思考し、以後の学習に活用する学習活動の充実

### 3 主題設定の理由

国語の学習を通して何を学んだかを生徒に意識させる上で、身に付けた知識を相互に関連付けて思考し、以後の学習に活用させる学習活動が重要である。本研究では、自分の考えや思考過程を振り返り、意見交換や比較などを通じて、思考を深めるとともに、学習した思考の流れを以後の学習に活用させる指導の工夫が重要であると考えた。

本研究の主題に迫るため、次の視点を設定し、研究を進めた。

#### 【研究の着眼点】

- 生徒が自分の思考過程を振り返ることができるように指導すること。
- 自分の考えを見直し深めることができるように指導すること。
- 学習した思考の流れを以後の学習に活用できるように指導すること。

このことを踏まえ、本研究主題を「自分の考えを見直し深めるための授業改善」と設定し、生徒の思考過程の振り返りと、学習した思考の流れを活用する授業の工夫について、研究を行うこととした。

## Ⅱ 研究の視点

### 1 国語科における「思考力、判断力、表現力等」

「答申」では、新しい時代に求められる資質・能力を、「生きて働く『知識・技能』の習得」、「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」の三つの柱で整理して示している。この資質・能力の三つの柱のうち、今年度は、「思考力、判断力、表現力等」の育成に重点を置き、研究主題を「新しい時代に求められる「思考力、判断力、表現力等」を高めるための授業改善」としている。

本研究では、国語科における「思考力、判断力、表現力等」を、以下の三つの側面から定義した。

#### 【思考的側面】

- 知識や情報を収集し、蓄積した経験を参照して、自らの考えを統合・再構成する力
- 知識や情報をよく理解し、思考を深化させるとともに、問いを立てる力

#### 【判断的側面】

- 知識や情報をつないだり、多面的・多角的に精査したりする力
- 知識と情報とを比較し、再評価する力

#### 【表現的側面】

- 思考・判断を通じて、明確に表現する力

今回の研究では、「思考力、判断力、表現力等」の中でも、特に思考力、判断力を育成する指導に重点を置き、授業改善に取り組むこととした。

### 2 思考過程を振り返り、自分の考えを見直し深める

思考力、判断力を育成するためには、講義中心の伝達に偏った授業を見直し、自分の思考

過程を振り返り、意見交換等を通じて、自分の考えを客観的に見直し深める指導の充実が必要である。本研究では、問いに対して自分の思考過程を目に見える形で記録させて、学習の見通しをもたせることや、自分の思考過程を振り返ることができるようになる学習方法について研究を進めた。

### 3 学習した思考の流れを次の学習に活用させる

一つの学習で学習した思考の流れを、以後の学習でも活用できるようにするために、ワークシートを活用し、思考過程の振り返りができるように研究を進めた。

## Ⅲ 研究の仮説

本研究の研究主題及び研究の視点を踏まえ、以下の仮説を設定し、検証授業を行った。

### 【仮説】

- 仮説1 思考過程を記録し、意見交換と振り返りを行うことで、「思考的側面」である自らの考えを統合・再構成する力を育み、思考を深めることができる。
- 仮説2 学習した思考の流れを以後の学習で活用させることで、「判断的側面」である知識や情報をつないだり、比較したりして、多面的・多角的に精査する力を育み、思考を深めることができる。

## Ⅳ 研究方法

### 1 研究の方法

本研究では、「現代文B」の単元を設定し研究を行うこととし、仮説の検証をするために検証授業を実施し、授業改善の具体的な在り方について研究を行った。所属校におけるこれまでの授業実践例等を挙げ、協議を通じて、研究の視点を具体化した以下の学習活動を位置付け、次の三つの視点で単元指導計画を作成した。

### 【単元指導計画の作成上の視点】

- 生徒が学習活動を振り返るために、ワークシートに思考過程を記録させ、思考過程を可視化できるように指導する。
- 生徒相互に意見交換を行い、思考過程を振り返るように指導する。
- 扱う教材と関連のある文章や資料等を活用し、批評したり解釈したりできるように指導する。

### 2 具体的方策

#### (1) 指導事項について

「現代文B」について、次の指導事項から単元指導計画を作成した。

【「現代文B」指導事項】

- ア 文章を読んで、構成、展開、要旨を的確にとらえ、その論理性を評価すること。
- ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
- エ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。
- オ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。

(2) 学習指導について

- ① 「現代文B」の授業を行い、問いに対し、ワークシートを活用し、生徒に思考過程を記録させながら、本文から読み取った内容をまとめさせる。
- ② ワークシートを基に自分の考えや、思考過程を振り返るとともに、生徒相互の意見交換を通じて、自分の考えを見直し深める学習活動を行う。
- ③ 学習した思考の流れを以後の学習に活用させるため、本文と関連のある文章や資料等を活用し、批評したり解釈したりする学習活動を行う。

(3) 思考過程を記録させるワークシートについて

生徒が自分の思考過程を記録する際のワークシートを作成するに当たり、ワークシートの構成を次のように考え、図1のようにワークシートを作成した。

【ワークシートの構成（思考過程の構成）】

- ① 何を答えるか（出題の意図・方向性を確認して何を答えるのかを記入）
- ② 必要な要素（解答に必要な語句・表現を探して記入）
- ③ 書き換え（要素について、文章化するために必要に応じて表現を整えて記入）
- ④ 組み立て（解答の文章構造や語句・表現の論理関係を考えて、文を組み立てて記入）

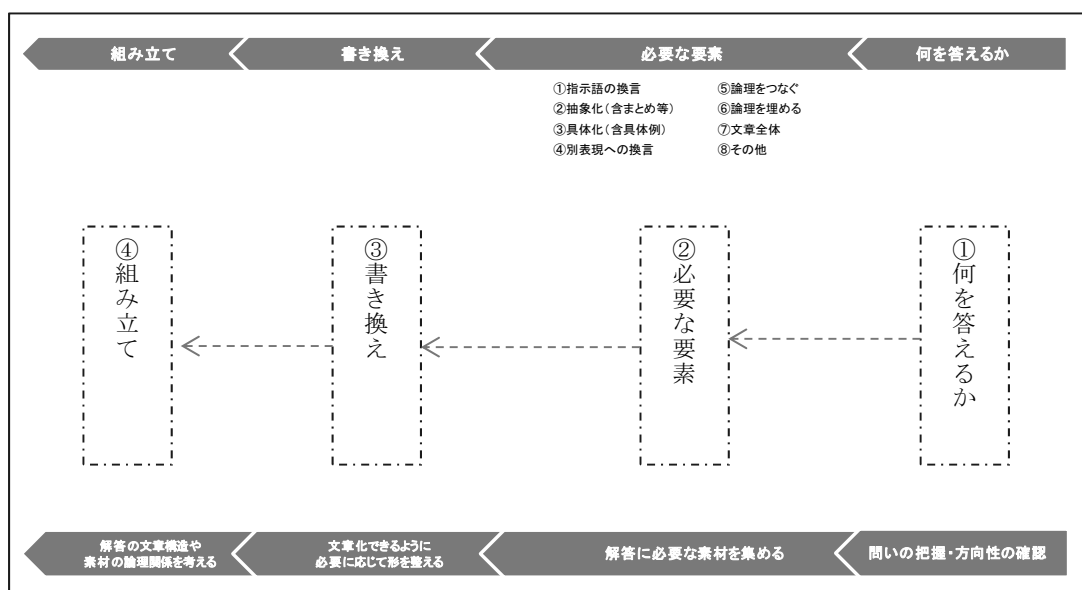


図1 本研究で使用するワークシート

#### (4) 教材について

所属校で使用している教科書教材を基本として、単元指導計画を作成する。本研究の検証に適している評論文教材を選定した。

### 3 検証

#### (1) 検証授業

検証授業は3回実施し、次のように仮説の検証を行った。

検証授業	内容
1回目	仮説1の検証を中心に授業研究を行い、次の検証授業に向けた改善を行った。
2回目	1回目の検証授業の改善を踏まえ、2回目は仮説2の検証を中心に授業研究を行い、次の検証授業に向けた改善を行った。
3回目	1・2回目の検証授業を踏まえ、仮説1・2の検証を行う授業研究を行い、仮説の検証及び成果をまとめた。

#### (2) 検証方法

- ・ ポートフォリオ評価（ワークシートの記述）  
本研究で活用するワークシートの記述内容により、生徒の思考の深まりが見られるようになったか検証する。
- ・ アンケート（学習者の実感や授業に対する意識の変化）  
アンケートによる生徒の実感や授業に対する意識の変化より検証する。



## V 研究内容

### ○ 研究構想

全体テーマ 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

高校部会テーマ

「新しい時代に求められる『思考力・判断力・表現力等』を高めるための授業改善」

国語科における「新しい時代に求められる『思考力・判断力・表現力等』」の三つの側面

#### 【思考的側面】

- 知識や情報を収集し、蓄積した経験を参照して、自らの考えを統合・再構成する力
- 知識や情報をよく理解し、思考を深化させるとともに、問いを立てたりする力

#### 【判断的側面】

- 知識や情報をつないだり、多面的・多角的に精査したりする力
- 知識や情報を比較し、再評価する力

#### 【表現的側面】

- 思考・判断を通じて、明確に表現する力

高校部会テーマにおける現状と課題

#### 【現状】

- 生徒の思考過程は一面的であり、自分の考えを深化させ、多面的・多角的に思考する力が十分に身に付いていない。
- 生徒は単元の内容を理解はしているが、学んだ知識を相互に関連付けて考えたり、学んだことを以後の学習に活用したりすることが十分にできていない。

#### 【課題】

- 自分の考えを深化させ、多面的・多角的に思考させる力を育む学習活動の充実
- 身に付けた知識を相互に関連付けて思考し、以後の学習に活用する学習活動の充実

#### 【テーマ設定のための着眼点】

- 生徒が自分の思考過程を振り返ることができるように指導すること。
- 自分の考えを見直し深めることができるように指導すること。
- 学習した思考の流れを以後の学習に活用できるように指導すること。

### 高等学校国語部会主題

自分の考えを見直し深めるための授業改善

～思考過程を振り返り、学習した思考の流れを活用する授業改善の工夫～

#### 仮説

- 仮説1 思考過程を記録し、意見交換と振り返りを行うことで、「思考的側面」である自らの考えを統合・再構成する力を育み、思考を深めることができる。
- 仮説2 学習した思考の流れを以後の学習で活用させることで、「判断的側面」である知識や情報をつないだり、比較したりして、多面的・多角的に精査する力を育み、思考を深めることができる。

#### 具体的方策

- 生徒が学習活動を振り返るために、ワークシートに思考過程を記録させ、思考過程を可視化できるように指導する。
- 生徒相互に意見交換を行い、思考過程を振り返るように指導する。
- 本文と関連のある文章や資料等を活用し、批評したり解釈したりできるように指導する。

#### 検証方法

- ポートフォリオ評価（ワークシート）による生徒の思考の深まりが見られるようになったか検証する。
- アンケートによる生徒の実感や授業に対する意識の変化より検証する。

○ 実践事例 1

教科名	国語	科目名	現代文B	学年	第3学年
-----	----	-----	------	----	------

1 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 評論文を読み、自分の考えを深める
- イ 使用教材 坂口安吾「日本文化私観」

2 単元（題材）の目標

- ・ 言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。
- ・ 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させる。
- ・ 国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図る。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句の意味、用法を的確に理解している。</li> <li>・ 表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。</li> <li>・ 文章を読み比べ、物事を多面的に見て考え、論じたり評価したりする。</li> <li>・ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句や表現に注意して文脈を捉え、筆者の考えなどを、読み取ろうとしている。</li> <li>・ 目的に応じて文章全体をまとめようとしている。</li> </ul>

4 単元（題材）の指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を読み、語句の意味を理解する。</li> <li>・ 要旨をまとめる。</li> <li>・ 初読の意見文を書く。</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句の意味、用法を的確に理解している。</li> <li>・ 表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てている。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉
第2次 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の論理について考え、本文のキーワードの一つ「散文の精神」の意味について考える。</li> <li>・ グループで意見交換を行う。</li> <li>・ 意見交換を基に自分の思考を振り返る。</li> </ul>		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。</li> <li>・ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の解説により本文の内容を理解する。</li> <li>・ 語句の意味、用法を確認する。</li> </ul>			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句や表現に注意して文脈を捉え、筆者の考えなどを、読み取ろうとしている。</li> <li>・ 目的に応じて文章全体をまとめようとしている。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉

第4次	・日野啓三「私にとって都市も自然だ」を読み、「日本文化私観」と比べ読みを行い、二つの文章にどのような点に違いがあるのか考える。	●	・文章を読み比べ、物事を多面的に見て考え、論じたり評価したりする。 〈行動の観察・記述の分析〉
-----	---	---	--

## 5 本時（全4時間中の2時間目）

### (1) 本時の目標

ア 文章を的確に読み取り、本文のキーワードの一つ「散文の精神」について自分の考えを深め、発展させる。

イ 各生徒が自分の考えを基に、本文のキーワードの一つ「散文の精神」について話し合い、考えを深める。

### (2) 仮説に基づく本時のねらい

ア 自分の思考過程を可視化させ、振り返らせ、自らの考えを統合・再構成させる。

イ グループによる意見交換を通じて、自分の思考を振り返らせ、思考を深めさせる。

### (3) 配布資料

- ・ ワークシート（図1）

本研究で作成したワークシートを活用し、生徒の思考過程の可視化を図り、振り返りができるように指導する。

### (4) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 15分	・前時間を振り返る。 ・本時の学習内容を確認する。 ・各自、「散文の精神」の意味について考える。ワークシートに取り組む。	・本時の学習の見通しをもたせる。 ・ワークシートに思考過程が分かるように、必要と思われる要素本文から抜き出させる。 ・思考過程が分かるようにまとめさせる。	・文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。 〈行動の観察・記述の分析〉
展開 20分	・自分の考えを基に、グループ内で意見交換する。 ・グループ内で疑問点を出し合い解決に向けて話し合う。 ・グループでよりよい解答をつくる。	・グループ内の話し合いで、 ①各自の意見を共有させる。 ②重点化する問題点について話し合わせる。 ・各グループで解答を作成させる。 ・他の人の意見を聞いて自分の思考過程で足りない部分を補い、グループとしての答えをつくらせる。	・目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。 〈行動の観察・記述の分析〉
まとめ 15分	・各グループが発表し全体で共有し、振り返る。 ・授業者の解説から振り返る。	・発表の際、各自メモを取らせる。 ・グループごとに短く講評、補足説明を行う。 ・次回の学習の見通しをもたせる。	・文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。 〈行動の観察・記述の分析〉

## 6 本時の振り返り

### (1) 前時までの学習について

本時の前に、各自で読解をまとめる課題学習（第1次）を行い、本時の「散文の精神について筆者の考えをまとめる」課題に、円滑に取り組むことができるように計画した。各自に教科書の「日本文化私観」を読ませ、読解プリントに要旨、意味調べ、疑問点、意見文をまとめさせた。

### (2) 本時

ア 生徒が設問に対し、ワークシートを活用して、思考過程を記録して可視化することで、自分の思考を振り返り、さらにグループで意見交換し、自分の考えを客観的に振り返る学習活動を行った。生徒のワークシートの記述を見ると、図2のように、文章の構成を踏まえた理解や、自分の考えを順序立てて組み立てることができるようになった生徒が増えてきた。

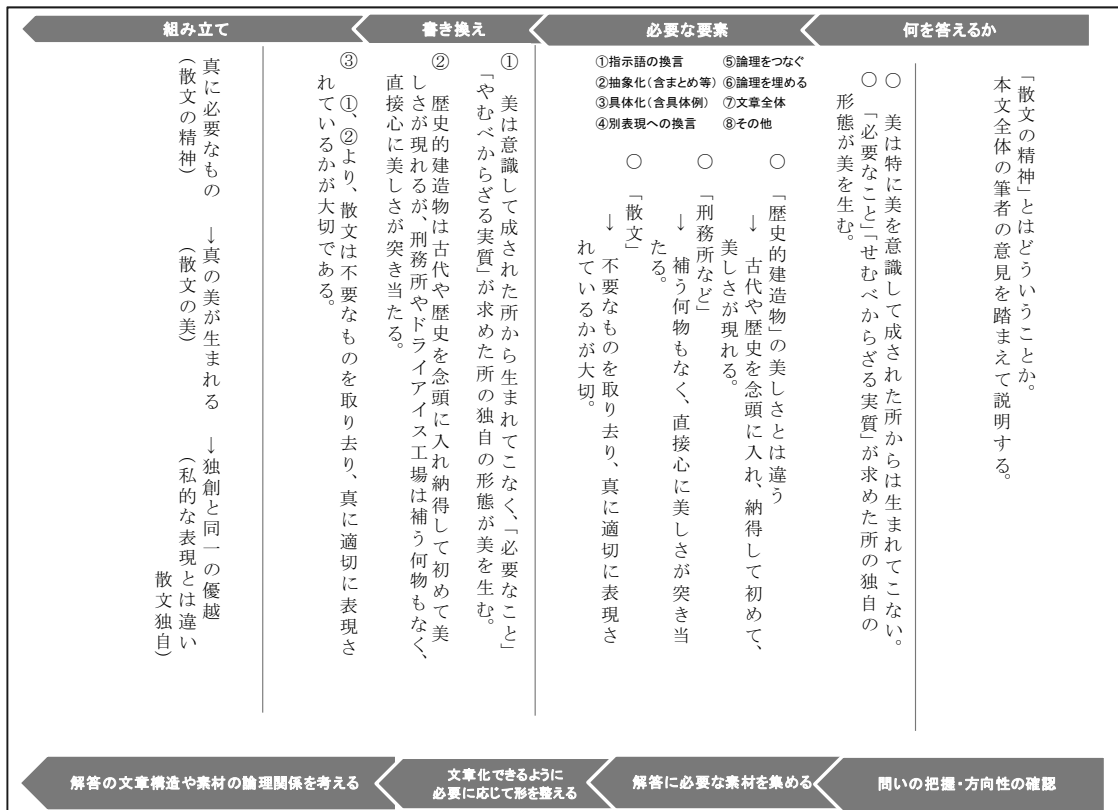


図2 本時で使用したワークシートの記入状況

イ 授業後、生徒に対してアンケートを実施し、「授業を通じて分かったこと、できるようになったこと」という質問に対して、次のような感想が見られた。

#### 【生徒の主な感想】

- ・ 頭の中で考えたことを図表で表すこと。それらを書き換えること。
- ・ 筆者の伝えたいことが、文章を整理することで、分かるようになった。
- ・ 同じことを指す言葉をまとめることができるようになった。
- ・ 話し合うことで自分では気付かなかった部分に注目できたり、自分の解釈とは異なっている点に気付いたりした。

### (3) 次時以降の学習活動

第3次は本文の解説を行い、第4次では、日野啓三「私にとって都市も自然だ」を関連する教材として比べ読みを行い、「日本文化私観」と比較して、どういう点に違いがあったか考えさせた。授業後、生徒のアンケートへの自由記述では、次のような感想が見られた。

#### 【生徒の主な感想】

- ・ 疑問をもつということは分かっていないことだと思っていたけれど、深く考えて理解したからこそ出てくる疑問もあるのだと思った。
- ・ 本文のまとめをする際に、ワークシートで学習したようなまとめ方をすると納得できるまとめ方ができた。今後も続けていき、頭の中でもできるようにしたい。
- ・ 今まで私が出会ったことのない考えに触れて、自分の視野が広がった。もっといろいろなものの見方、考えを知りたいと思った。
- ・ 解答を組み立てるのに一つ一つ順序を踏んでいくと組み立てやすい。
- ・ 問いに対して必要な要素を自分でピックアップしてから書き換えて組み立てていくという一連の流れで、自分の考えをまとめていくことで、自分の書きたいことが整理されてよかった。
- ・ 比べ読みで二つの文章の内容を関連付けることができ、学習内容の理解が進んだ。

### (4) 次の検証授業に向けての課題及び改善策

#### ア ワークシートの構成について

図2(10 ページ)の本時で使用したワークシートの記入状況を見ると、「必要な要素」の項目に論理構成分析のためのキーワード(指示語の換言・抽象化・具体例・別表現への換言・論理をつなぐ・論理を埋める・文章全体・その他)を記載したが、生徒の実態に応じて、次項の「書き換え」「組立て」の項目にも、学習の手掛かりとなるように、キーワード等を記載することが必要である。

#### イ 教材の理解について

本単元では、第3次で本文の解説を行ったが、教材の難易度によっては、解説を単元の前半に入れ、生徒の内容理解度を高めるなどの工夫が必要である。

#### ウ 文の構成に関する知識について

文章の論理構成を考えさせる以上、文の段落構成に関する知識が必要である。意見交換をする際に、共有していることが必要である。

### ○ 実践事例2

教科名	国語	科目名	現代文B	学年	中等第5学年
-----	----	-----	------	----	--------

#### 1 単元(題材)名、使用教材

ア 単元名 評論文を読み、自分の考えを深める

イ 使用教材 内田樹「物語るという欲望」

#### 2 単元(題材)の目標

- ・ 言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。

- ・ 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させる。
- ・ 国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図る。

### 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句の意味、用法を的確に理解している。</li> <li>・ 表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。</li> <li>・ 文章を読み比べ、物事を多面的に見て考え、論じたり評価したりする。</li> <li>・ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句や表現に注意して文脈を捉え、筆者の考えなどを、読み取ろうとしている。</li> <li>・ 目的に応じて文章全体をまとめようとしている。</li> </ul>

### 4 単元（題材）の指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を読み、語句の意味を理解する。</li> <li>・ 本文の二つのキーワードを理解する。</li> <li>① 脈絡がない二つの事物の間に脈絡を付けるという意味で用いられている「論理的架橋」について</li> <li>② 脈絡を付けて整えられるストーリーである「物語」の中であって、何を意味するのかよく分からないものが、解釈へと動機付ける意味生成の動力となる「反一物語」について</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句の意味、用法を的確に理解している。</li> <li>・ 表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てている。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉
第2次（本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「不思議の国のアリス」を教材として扱い、前次で学習した思考の流れを活用する学習を行う。</li> <li>① 「不思議の国のアリス」について九つの場面における設問を設定し、グループごとに1問ずつ担当する。</li> <li>② ワークシートを使って、まずは各生徒が解答を考える。</li> <li>③ グループ内で各生徒が意見交換し、グループとしての解答を作成する。</li> <li>④ グループ発表を行い、相互評価する。</li> <li>⑤ グループ発表の各内容を関連付けて作者について説明文を作成する。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。</li> <li>・ 文章を読み比べ、物事を多面的に見て考え、論じたり評価したりする。</li> <li>・ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。</li> <li>・ 語句や表現に注意して文脈を捉え、筆者の考えなどを、読み取ろうとしている。</li> <li>・ 目的に応じて文章全体をまとめようとしている。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉

### 5 本時（全2時間中の2時間目）

#### (1) 本時の目標

- ア 前時で学習した思考の流れを活用し、文章を的確に読み取り、自分の考えを深める。
- イ グループによる意見交換を通じて、自分の考えを振り返り、思考を深める。

(2) 仮説に基づく本時のねらい

- ア 学習した思考の流れを以後の学習に活用させて、思考を深めさせる。
- イ グループによる意見交換を通じて、他人の意見と比較し、多面的・多角的に思考させる。

(3) 配布資料

ア ワークシート

(図 3)

検証授業 1 の後のから、本単元では「文の組み立て」に、生徒が考える際に手掛かりとなるキーワードを追記した。

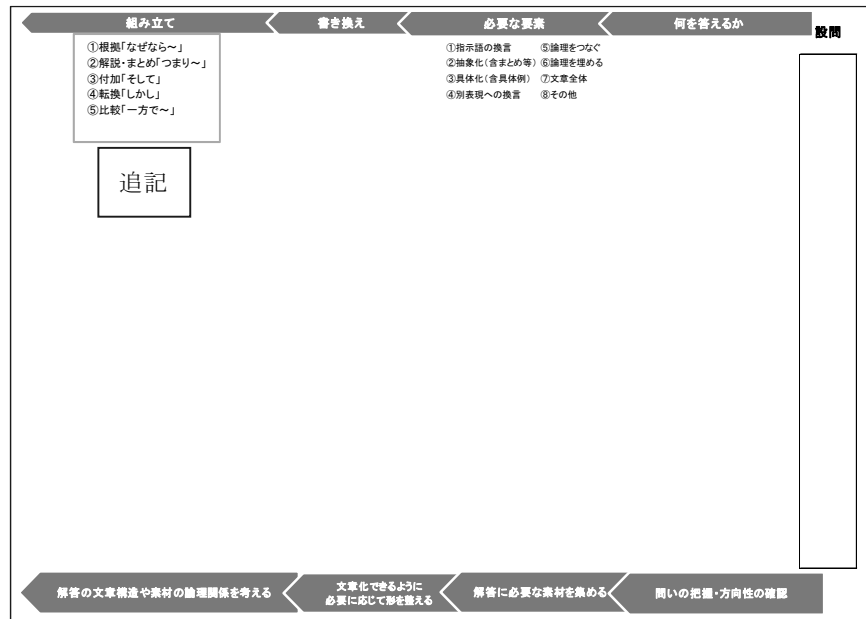


図 3 手掛かりとなるワードを追記したワークシート

イ 「不思議の国のアリス」の設問・発表評価シート及び資料

「不思議の国のアリス」について九つの場面における設問を設定し、グループごとに1問ずつ担当する。複数の資料を基に、前次で学習した脈絡がない二つの事物の間に脈絡を付けるという思考の流れである「論理的架橋」という考え方を活用した学習を行う。

【グループが担当する設問の一例】

「不思議の国のアリス」のある場面とその場面に関わる資料を読み、設問に答える。

<場面>  
 ウサギ穴に落ちてしまったアリスは、大きな広間に出る。そこには「ドリンクミー」と書かれた菓があり、飲んでみると小さくなった。その後、鍵を取るためにケーキを食べると今度は大きくなりすぎてしまう。困ったアリスは大泣きして、池ができた。

<配布資料の概要>  
 ① 昔、ロンドンは全ての汚物をテムズ川に流していたので、テムズ川の悪臭は社会問題だった。川沿いにある国会議事堂（ビッグベンに隣接）は、あまりの臭さで本会議場の中での審議にも支障が出始め、体調を崩す議員が続出したため、国会が休会したこともあったほど。不衛生ゆえにコレラも流行してしまったため、1850年から1866年に上下水道の敷設が行われた。この1860年代は、上下水道の更に下に地下鉄が走り始めるなど、ロンドンの地下では大改革が行われていた。

② 「不思議の国のアリス」はもともと「地下の国のアリス」というタイトルで、作者から主人公アリスのモデルになったアリス・リデルへ送られたものを、一般向けに加筆修正したものだった。

<設問>  
 なぜ作者は地下に池ができると想像したのか。その理由を説明しなさい。

#### (4) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返る。</li> <li>・本時の学習内容を確認する。</li> <li>・「不思議の国のアリス」を教材として扱い、前時間で学習した思考の流れを活用する学習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習について見通しをもたせる。</li> </ul>	
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループに課せられた設問について、「不思議の国のアリス」に関わる資料を参照し、ワークシートを使って、答えを考える。</li> <li>・グループで意見交換を行う。</li> <li>・意見交換を基に自分の考えを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で学習した思考の流れを使って考えさせる。</li> <li>・4名×9グループ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。</li> <li>・目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉
まとめ 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各生徒の考えを基に、グループ内で意見交換し、グループとしての解答をつくる。</li> <li>・グループ発表を行い、相互評価する。</li> <li>・グループ発表の各内容を関連付けて作者を紹介する説明文をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人の意見を聞いて自分の思考過程で足りない部分を補い、グループとしての解答をつくらせる。</li> <li>・前時で学習した思考の流れを使って考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読み比べ、物事を多面的に見て考え、論じたり評価したりする。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉

## 6 本時の振り返り

### (1) 前時までの学習活動

第1次では、本文の内容理解や文の構成を中心に学習し、「論理的架橋」、「反一物語」というキーワードが表す内容を考えるために、ワークシートを活用して思考過程を記録させ、思考の流れを学習した。

### (2) 検証授業1を踏まえての工夫

前回の検証授業1の課題及び改善策を受けて、第1次で本文の内容理解や文の構造を中心に学習させ、解説を行った。

### (3) 本時

ア 前時間で、本文の内容理解や文の構成を学習したため、本時では活発なグループ活動ができた。

イ ワークシートに、設問に答えるために必要なキーワードを抜き出し、それらを線で結び、書き換えを行うという生徒の思考過程が分かる記述や、「＝」を用いて意味を言い換えたり、「⇒」を用いて思考の流れを示したりする記述が見られるなど、前時間で学習した思考の流れを以後の学習で活用させたことで、本文の内容を深く理解できるとともに、物事を多



面的に考えることができるようになった。

一方、生徒の中には、思考するために文中から必要な要素が抜き出せなかったり、言い換え部分が探せなかったりするなど、思考が進まないように見える生徒もいた。今後は思考過程をワークシート上でマッピングさせるなど、複数の視点で思考できるように指導していく。

ウ 生徒の思考過程の可視化を通して、従来の授業で多く見られた意見共有だけではなく、思考過程の共有もできるようになった。

#### (4) 次時以降の学習活動

次の単元でも、思考の流れを意識させるために、ワークシートを活用した。ワークシートでは、思考過程を可視化する際、図解や数学的記号を用いる生徒もいた。これは思考過程を振り返るのに有効であるので、図解等での思考過程の記録方法も活用できるように、指導を工夫する。

#### (5) 次の検証授業へ向けての課題及び改善策

##### ア 考えさせる時間の確保について

本単元を2時間で計画した。第2次ではグループ活動と発表が中心となり、各グループの活動を通じて、思考過程を振り返らせた。

グループの発表後に、各発表内容を関連付けて作者について説明する文章を作成させる課題では、生徒に考えさせる時間が十分ではなかったため、意見が活発に出てこなかった。

単元指導計画を作成する際、生徒に考えさせる時間を単元のどの場面で行うか、また指導する際に、生徒に何のためにこの活動を行うのかを明確にし、単元指導計画を作成する必要がある。

また、発表は生徒の取組を活性化させるために必要だが、時間を要するため、設定の可否を考慮する必要がある。

##### イ 比べ読みについて

本単元では、生徒が学習した思考の流れを活用し、以後の学習において文章を的確に読み取り、自分の考えを深めさせるために比べ読みを行った。その際、ワークシートを活用し、生徒の思考過程を振り返ることができるように指導した。

授業後の本研究の協議において、本教材を深く理解するために、筆者の論のベースとなっているテキスト論について、多面的・多角的に考察する学習を行うとよいという意見が出された。そこで、次時は、テキスト論をベースとした他の筆者の評論との比べ読みを行うこととした。

### ○ 実践事例3

教科名	国語	科目名	現代文B	学年	第2学年
-----	----	-----	------	----	------

#### 1 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元名 評論文を読み、自分の考えを深める

イ 使用教材 内田樹「物語るという欲望」

## 2 単元（題材）の目標

- ・ 言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。
- ・ 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させる。
- ・ 国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図る。

## 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句の意味、用法を的確に理解している。</li> <li>・ 表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。</li> <li>・ 文章を読み比べ、物事を多面的に見て考え、論じたり評価したりする。</li> <li>・ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句や表現に注意して文脈を捉え、筆者の考えなどを、読み取ろうとしている。</li> <li>・ 目的に応じて文章全体をまとめようとしている。</li> </ul>

## 4 単元（題材）の指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を読み、語句の意味を理解する。</li> <li>・ 本文のキーワードである脈絡がない二つの事物の間に脈絡を付けるという意味で用いられている「論理的架橋」が示す内容について理解する。</li> <li>・ 文中で「論理的架橋」を言い換えている部分を探す。</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句の意味、用法を的確に理解している。</li> <li>・ 表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てている。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文の構造を図式化する。</li> <li>・ 「論理的架橋」についてグループで意見交換する。</li> <li>・ グループで意見交換した内容をクラス全体で共有する。</li> </ul>		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉
第3次 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田中実「小説の力」を読み、二つの文章におけるテキスト論の解釈の違いを考える。</li> <li>・ 二つの文章におけるテキスト論について共通する部分を探す。</li> <li>・ 語句の意味を理解する。</li> </ul>		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章を読み比べ、物事を多面的に見て考え、論じたり評価したりする。</li> <li>・ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉
第4次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前次で取り組んだ内容をグループ内で意見交換を行う。</li> <li>・ 意見交換した内容を発表し、全体で共有する。</li> <li>・ アンケートを行う。</li> </ul>			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句や表現に注意して文脈を捉え、筆者の考えなどを、読み取ろうとしている。</li> <li>・ 目的に応じて文章全体をまとめようとしている。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉

## 5 本時（全4時間中3時間目）

### (1) 目標

- ア 文章を的確に読み取り、筆者の論旨のベースとなっているテキスト論について、多面的・多角的に考察することで、読みを深める。
- イ グループによる意見交換を通じて、自分の思考を振り返り、思考を深める。

### (2) 仮説に基づく本時のねらい

- ア グループによる意見交換を通じて、他人の意見と比較し、多面的・多角的に思考させる。
- イ 比べ読みにより、思考過程の振り返り、考え見直し深めることができる。学んだ思考の流れを以後の学習に活用させて、思考を深めさせる。

### (3) 配付資料

#### ア ワークシート（図4）

自分の考えを見直し、書き換えられるようにするため、ワークシートの項目を追加した。

#### ・設問

内田樹の文章はテキスト論に基づいて書かれたと言える。なぜこのように言えるか。田中実の文章を基に説明しなさい。

組み立て	書き換え	必要な要素	何を答えるか
		①指示語の換置 ②抽象化(含まめ等) ③具体化(含具体例) ④別表現への換置	⑤論理をつなぐ ⑥論理を埋める ⑦文章全体 ⑧その他
内田樹の文章は「テキスト論」に基づいて書かれたと言える。なぜこのように言えるか。田中実の文章を基に説明しなさい。			
解答の文章構造や素材の論理関係を考える	文章化できるように必要に応じて形を整える	解答に必要な素材を集める	問いの把握・方向性の確認
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                         困難を感じた点や疑問点                          生徒の感想記入欄課題を取り組む上で困難だった点について                     </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">                         できるようになったこと                          生徒の感想記入欄授業でできるようになったこと、分かったことについて                     </div>	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">                         私の考え2                          自分の考え2                          自分の考え1から、さらに振り返りを通じて、自分の考えを見直し書き換える。                     </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;">                         私の考え1                          自分の考え1                          振り返りや意見交換を通じて、自分の考えを見直し書き換える。                     </div>		

図4 自分の考えを書き換えられるように工夫したワークシート

#### (4) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返る。</li> <li>・本時の学習内容を確認する。</li> <li>・本文を読み、分からない語句を抜き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをもたせる。</li> </ul>	
展開 27分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中実「小説の力」を読み、語句の意味を理解する。</li> <li>・二つの文章におけるテキスト論について理解する。</li> <li>①異なる部分を探す。</li> <li>②共通する部分を探す。</li> <li>③本文における「論理的架橋」という筆者の考え方はテキスト論をどのように活用しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめは辞書を使わず文脈や漢字の意味から類推させる。</li> <li>・テキスト論と作品論の対立を意識させて考えさせる。</li> <li>・ワークシートに要素を抜き出させ、思考過程を振り返らせる。</li> <li>・机間指導しながら生徒の進捗を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読み比べ、物事を多面的に見て考え、論じたり評価したりする。</li> <li>・目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して文章を作成し、自分の考えを効果的に表現している。</li> </ul> 〈行動の観察・記述の分析〉
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時を振り返る。</li> <li>・次回の学習内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に本時で学習した内容を確認させるとともに、次回の学習の見通しをもたせる。</li> </ul>	

## 6 本時の振り返り

### (1) 前時までの学習活動

第1次、第2次では、本文のキーワードの一つである「論理的架橋」という考え方について、ワークシートを用いて生徒に考察させ、生徒間の意見交換を行った。また、授業者の解説によって本文の内容を理解させ、本文全体の内容を把握させた。

### (2) 検証授業2を踏まえての工夫

今回の検証授業は検証授業2と同教材とした。検証授業2の反省を踏まえて、配当時間を4時間に見直した。また、発表は生徒の振り返りに有効であると考えたため、今回の授業でも取り入れ、生徒に考えさせる時間を考慮して単元指導計画を作成した。

さらに、扱う教材と関連した教材として、「テキスト論」について述べた文章を比べ読みの教材とした。

### (3) 本時

ア 生徒が思考過程を振り返り、意見交換によって自分の考えを見直し深めることができるようになってきた。

イ 現代文の授業において、今まで深く考えることが苦手だった生徒も、本単元において思考過程を振り返ったり、他の生徒と意見交換を行ったりする学習を通じて、考えを深められるようになってきた。

ウ 比べ読みの文章としては比較的難易度の高い文章を扱ったが、本研究による授業形態を複数行っていたため、単元指導計画どおり円滑に進み、生徒は意欲的に取り組むことができた。

#### (4) 成果と課題

##### ア 生徒に対するアンケート

生徒に思考過程を振り返らせる本単元のような授業を3回行った。三つの単元を総括してアンケートを実施した。結果は表1のように、概ね、本単元の学習について肯定的であった。特に比べ読みに対する肯定的意見が多く、比べ読みは生徒の意欲的な取組みを促す効果があるものと考えられる。一方、ワークシートの活用に否定的な考えをもっている生徒もいた。本研究の協議の中では、生徒によっては、ワークシートを使用しなくても設問に対する解答をすぐに導き出すことができる生徒がいることや、そもそも文章の内容の全体把握が不得意な生徒が、設問に取り組みず、ワークシートの活用が困難ではなかったのかとの意見も出された。今後は生徒の実態把握によるワークシートの改善等について検討していくことが課題である。

表1 3単元を総括したアンケートの結果

質問	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
ワークシートの活用で、思考過程の順序が整理できた	24.5%	45.3%	26.4%	3.8%
ワークシートの活用で、自分の思考過程の振り返りができた	19.8%	44.3%	33.0%	2.8%
比べ読みすることで、本文の理解が深まった	50.0%	44.3%	5.7%	0.0%

##### イ 記述による生徒の変容

生徒のワークシートの記述を分析すると、キーワードを線で結んだり、書き換えたり、補足したりする記述があるなど、他の生徒との交換によって自分の意見を訂正したり、新たなことに気が付き補足したりしている様子が見られた。

また、ワークシートの「授業をできるようになったこと、分かったこと」の欄には、次のような記述があり、多角的に物事を思考し、他の人の意見を参考にして考えを見直す態度が身に付いているものと考えられる。

##### 【生徒の主な感想】

- ・ 二つの文章から筆者の言いたいことについて考えを深めることができるようになった。
- ・ 文中から必要な要素を抜き出し、それらを結び付けて考えることができるようになった。
- ・ 他人の解答や思考の流れを見て、文章の書き方や考え方について複数の方法があることを知り、視野が広がった。

## VI 研究の成果

### 1 仮説の検証

本研究では、ワークシート(ポートフォリオ)による生徒の思考過程の深まりが見られるようになったかを見ることと、アンケートによる生徒の実感や授業に対する意識の変化を見ることによって仮説の検証を行った。

(1) 仮説1 思考過程を記録し、意見交換と振り返りを行うことで、「思考的側面」である自らの考えを統合・再構成する力を育み、思考を深めることができる。

ア 生徒に対するアンケート形式での自己評価の推移から見る意識の変化

次の表2～4は、検証授業3の学校における生徒に対するアンケート結果である。生徒に思考過程を振り返らせる単元を3回行った。

表2 単元ごとのアンケートの結果 <質問:問いに対して思考方法が分かる>

		あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
1回目	1単元目の学習後	18.2%	60.6%	21.2%	0.0%
	1単元目の比べ読み後	15.4%	59.0%	20.5%	5.1%
2回目	2単元目の学習後	8.3%	50.0%	38.3%	3.3%
	2単元目の比べ読み後	7.7%	50.0%	40.4%	1.9%
3回目	3単元目の学習後	<b>37.8%</b>	<b>53.3%</b>	<b>8.9%</b>	<b>0.0%</b>
	3単元目の比べ読み後	<b>37.7%</b>	<b>52.5%</b>	<b>9.8%</b>	<b>0.0%</b>

表3 単元ごとのアンケートの結果 <質問:本文から必要な要素を抜き出すことができる>

		あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
1回目	1単元目の学習後	12.1%	54.5%	33.3%	0.0%
	1単元目の比べ読み後	7.7%	53.8%	33.3%	5.1%
2回目	2単元目の学習後	6.7%	56.7%	36.7%	0.0%
	2単元目の比べ読み後	5.8%	57.7%	32.7%	3.8%
3回目	3単元目の学習後	<b>25.0%</b>	<b>63.6%</b>	<b>11.4%</b>	<b>0.0%</b>
	3単元目の比べ読み後	<b>26.2%</b>	<b>54.1%</b>	<b>18.0%</b>	<b>1.6%</b>

表4 単元ごとのアンケートの結果 <質問:積極的に思考できた>

		あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
1回目	1単元目の学習後	30.3%	42.4%	27.3%	0.0%
	1単元目の比べ読み後	38.5%	43.6%	15.4%	2.6%
2回目	2単元目の学習後	50.0%	40.0%	10.0%	10.0%
	2単元目の比べ読み後	36.5%	44.2%	15.4%	3.8%
3回目	3単元目の学習後	<b>57.8%</b>	<b>35.6%</b>	<b>6.7%</b>	<b>0.0%</b>
	3単元目の比べ読み後	<b>67.2%</b>	<b>29.5%</b>	<b>3.3%</b>	<b>0.0%</b>

全ての質問で、授業回数を重ねるにつれて肯定的評価が向上している。このことから、生徒は思考するための手掛かりを見付け、考える見通しをもち、積極的に授業に参加できるようになってきており、検証授業における授業改善の取組は、生徒の思考力を育むことに有効であるものと考えられる。

イ 記述の変化から見る生徒の変容

検証授業を行った所属校において、検証授業以後の学習にも、同様にワークシートを活用し、思考過程を振り返る学習を行った。その結果、授業を重ねるにつれて、次のような生徒の変容が見られた。

【生徒の変容】

- ・ 生徒のワークシートの記述を見ると、はじめは、思考するために本文から必要な要素を抜き出せなかった生徒が、授業を重ねるにつれて多くの要素を抜き出すことができるようになった。
- ・ 生徒の中には、抜き出した要素を自分で抽象化したり、まとめ直したりできるようになった生徒もいた。
- ・ 生徒間の意見交換や発表を通じて、自分の思考過程について足りなかった部分を書き加えて、自分の考えを見直している生徒が多くなってきた。
- ・ 言葉だけでなく図式化するなど、生徒が主体的に工夫し、考えるようになってきた。

ウ 上記ア・イから、思考過程を記録させ、意見交換と振り返りを行うことで、「判断的側面」である考えを統合・再構成する力を育み、思考を深めることができると考えられる。

(2) 仮説2 学習した思考の流れを以後の学習に活用させることで、「判断的側面」である知識や情報をつないだり、比較したりして、多面的・多角的に精査する力を育み、思考を深めることができる。

ア 生徒に対するアンケートによる意識の変化

表5・6は、検証授業3の学校において、本研究の授業形態で実施したクラスと、実施していないクラスとで実施した生徒のアンケートの結果である。

表5 単元ごとのアンケート結果

<質問:授業で学んだ知識や筆者の考えを他の文章を読むときにも援用している>

		あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
9月	本研究の授業実施前	15.7%	39.7%	31.7%	7.4%
11月	本研究の授業未実施のクラス	16.4%	32.9%	42.5%	8.2%
	本研究の授業実施後のクラス	23.9%	40.4%	32.1%	2.8%

表6 単元ごとのアンケート結果

<質問:授業で学んだ思考方法を以降の学習に生かしている>

		あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
9月	本研究の授業実施前	15.7%	39.7%	31.7%	7.4%
11月	本研究の授業未実施のクラス	16.4%	32.9%	42.5%	8.2%
	本研究の授業実施後のクラス	23.9%	40.4%	32.1%	2.8%

二つの質問について、実施グループは実施していないグループに比べ、肯定的意見が増加している。このことから、本研究の授業形態で学んだクラスの生徒は、学習した思考の流れを以後の学習に生かそうとする態度が身に付いたと考えられる。

イ 記述の変化による生徒の変容

(1) 仮説1のイのとおり、本研究の授業を重ねるごとに、生徒のワークシートは、記述が増える生徒が多くなり、思考を深めることができたと考えられる。

ウ 上記ア・イから、学習した思考の流れを以後の学習に活用させることで、「判断的側面」である知識や情報をつないだり、比較したりして、多面的・多角的に精査する力を育み、

思考を深めることができると考えられる。

## 2 成果

仮説の検証を通じて、更に次の成果が得られた。

### (1) 比べ読みによる理解の深まり

本研究では、仮説を検証するために、本文に関連した文章や資料と比べ読みする学習活動を行った。表1（19 ページ）のとおり、「比べ読みすることで、本文の理解が深まった」という質問に対しては94%以上の生徒が肯定的評価をしている。本研究で扱った比べ読み教材は、本文よりも比較的難易度が高いと思われる教材もあったが、ほとんどの生徒が本研究による学習活動を通じて、思考を深め、本文の理解につながったと考えられる。

このことから、比べ読みは、思考を深める上で有効であると考えられる。

### (2) ワークシートの活用による生徒の取組の変化

本研究におけるワークシートの活用は、評論文の読解に対して苦手意識をもつ生徒に有効である。はじめは、授業の課題に、積極的に取り組めず、ワークシートに、ほとんど書けなかった生徒が、授業を重ねるごとに、思考の流れを身に付け、自分の思考を振り返る学習活動を通じて、考えを見直し深めることができるようになってきた。下の図6は、生徒の取組が改善されたワークシートの一例である。ワークシートの「必要な要素」の記述を見ると、設問に答えるために必要なキーワードを抜き出し、それらを線で結び、書き換えを行うという生徒の思考過程が分かる。

このことから、本研究によって主体的に工夫しながら思考しようとする姿勢が生徒に芽生え、思考力・判断力を伸ばすことに有効であると考えられる。

自立 → 無限の相互依存

切り換え

組み立て	書き換え	必要な要素	何を答えるか
<p>自分し</p> <p>人間は生きる意味にこだわらずにはいられないから できるできないにこだわらずに自立は自分のこととは？ つまり ↓ 支え合い（賢いフォロー）</p>	<p>人間は生きる意味をこだわらずにはいられないから できるできないから意味をみいださうとする。 自立とは独立することではなく自分のことはできる限り 自分が自分で責任が助けが必要になったとき、電話する 相手が自分と責任が準備が常にできていること しつかりした社会はリーダー含め役割を交代できる社会 大切なのはいつも全体を見て思いやれる賢い フォローのほう ↓ 支え合い・相互依存</p>	<p>①指示語の抜き出し ②抽象化(含意と明意) ③具体化(含意と明意) ④別表現への換言</p> <p>⑤論理をつなぐ ⑥論理を埋める ⑦文章全体 ⑧その他</p> <p>自立 独立</p> <p>自分のことはできる限り自立 たとき電話する相手がいること</p>	<p>題</p> <p>筆者は「自立」をどのように促しているか (二つに分かれた意味段落に留意しながら)</p> <p>その上かいる 「できるしできない」という基準 「いつか不安」</p>

使用教材 鷲田清一「真の自立とは」  
設問 筆者は「自立」をどのように促しているか。

図6 生徒の取組が改善された生徒のワークシート



## Ⅶ 今後の課題

### 1 考える力を育む単元指導計画の改善と工夫

#### (1) 身に付けさせたい資質・能力の明確化

本研究は、思考過程の振り返りと学習した思考の流れを以後の学習に活用する授業を通じて、自分の考えを見直し深めさせるための授業改善を実践し、生徒に身に付けさせる資質・能力として思考力・判断力を育むことを目指し研究を進めてきた。

単元指導計画の作成においては、ワークシートを活用し、振り返りや意見交換、比べ読みを授業に取り入れ、生徒に考えさせる時間として、個人作業や生徒間の意見交換の場面を多く設定した。しかし、活動あって学びなしとならないためにも、授業者が、身に付けさせる資質・能力を明確にするとともに、活動させる目的を明確にして、指導に当たることが重要である。また、単元指導計画を作成する際、生徒の実態に応じて、生徒に考えさせる活動を単元のどの場面で考えさせるのが効果的かなどを研究し、継続して授業改善に努めることが重要である。

#### (2) 単元指導計画の明確化

身に付けさせたい資質・能力のために、どのような教材を、どのような順番で用いるかについて更なる工夫が必要である。教科として組織的に教材研究を行い、単元間のつながりをチャートにしたものを開発するなどの取組を推進する必要がある。

#### (3) 課題設定

本研究では、生徒に考えさせる力を身に付けさせるため、検証授業では、中心となる問いを本研究で話し合い、問いの内容を決めて授業を行った。生徒の実態に応じて、問いの難易度や考えさせたい内容などをよく吟味し、各単元における問いの設定を行うことが重要である。本研究の成果を更に発展させるためにも、今後、問いの立て方も一定程度の示唆が必要である。どのように問いを立てていけば効果的になるのか研究する必要がある。

#### (4) 比べ読み教材の開発

本研究では、生徒が学習した思考の流れを活用し、以後の学習において文章を的確に読み取り、自分の思考を深めさせるために比べ読みを行った。検証授業3の(4)成果の表1(19ページ)のように、思考力、判断力を育成する上で、比べ読みが効果的であったと考えられる。扱う比べ読み教材については、比べ読みの目的を明確にし、その目的に合った教材を選定し開発することが重要である。

### 2 ワークシートの改善

生徒の思考過程を可視化し振り返る上で、ワークシートの活用は有効であった。しかし、ワークシートは、常に改善の努力を続けることが必要である。生徒の実態に応じて、思考する手掛かりとなる、キーワードをあらかじめ記載しておいたり、記述しやすいように( )を記載しておいたり、図式化しておいたりするなど、スモールステップを入れる工夫も考えられる。

次は、生徒のアンケートにおけるワークシートに関する主な意見である。

【生徒の主な意見】

- ・ 他の人の意見を聞いてまとめる欄があったらいいと思う。
- ・ 要素集めのメモ欄がもっと広いといいと思う。
- ・ ワークシート内に要約を書く部分があるとよい。
- ・ 図示できるようなスペースがあるとよい。
- ・ 白紙に書くより、思考する順序が分かりやすいが、抽象語や「」の言葉を言い換えるための欄があるとよい。

生徒の意見を聞く機会を設定するなどし、工夫、改善に努めることが大切である。

### 3 国語科の果たすべき役割

「答申」では「教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向」があり、授業改善が必要であると示されていた。言語活動の充実は今までも国語科が中核的な役割を果たしてきたが、次期学習指導要領改訂においても、思考力、判断力、表現力等を構成する資質・能力の育成を効果的に図るため、言語活動の一層の充実を図ることが求められている。

本研究では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、生徒の思考過程の振り返りと、学習した思考の流れの活用を以後の学習に生かすことで、自分の考えを深めるための授業改善を行ってきた。

今後も国語科が言語活動を充実させる中心的役割を担うことは言うまでもなく、さらに、カリキュラム・マネジメントの考え方に立って教科指導を行うことが求められる。学校の教育活動全体を通じて育成したい資質・能力を明らかにし、国語科において、どのような資質・能力を身に付けさせ、その資質・能力がどうつながっていくのかということ意識しながら、日々の教育活動を行っていくことが極めて重要である。

国語科の教員として、常に課題意識を自覚し、主体的に授業改善に取り組んでいく必要がある。

## 平成 29 年度 教育研究員名簿

### 高等学校・国語

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立九段中等教育学校	主任教諭	小川 和寛
東京都立新宿山吹高等学校	教 諭	宇田川 恵里
東京都立小松川高等学校	主任教諭	山村 樹郎
東京都立鷺宮高等学校	教 諭	林 靖享
東京都立立川高等学校	教 諭	◎ 梅澤 真人
東京都立立川国際中等教育学校	教 諭	門 愛子
東京都立南多摩中等教育学校	教 諭	北久保 友希

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課  
課長代理 桑原 正樹

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

高等学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社